

## レクリエーションがもつ有効性の再考

—レクリエーションの本質と大学生が認識するレクリエーションとの違いに焦点を当てて—

○中山正剛 [別府大学短期大学部] 山本浩二 [津山工業高等専門学校]

神野賢治 [金沢星稷大学人間科学部]

キーワード：大学生、本質的なレクリエーション、狭義化

神野ら(2010)や一村(2006)の研究によると、青少年(学生)への意識調査の結果、鈴木(2010)が唱えている「本質的なレクリエーション」を軸にした場合、狭義化された認識が浸透している結果となっている。そこで本研究では、鈴木が提唱するレクリエーションと大学生が認識するレクリエーションとの「認識の違い」を明らかにし、レクリエーションの日常生活への浸透の手掛かりとなる今日的なレクリエーションの役割を明らかにする。予備調査では、レクリエーションの本来の意味とされる「余暇に、自由に、楽しむことを主たる目的となされる活動(一部略)」に関する意識や実態を自由記述により把握し、その結果を基に大学生のレクリエーションに対する認識を詳細に把握するためアンケート調査(本調査)を実施する。発表時には、大学生を代表とした青少年層のレクリエーションに対する認識から、レクリエーションの今日的意味と将来的な展望(有効性)について再考し、提言する。

都市地域に住む大学生を対象とした里山地域への関心について  
—福島県鮫川村里山景観保全活動の参加者・非参加者の比較—

○石塚裕樹 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：里山地域、都市地域、里山、景観保全活動、大学生

里山地域は過疎化や高齢化といった社会的な問題による影響から、今まで通りの文化的な環境の維持が困難になっている場合もある。今後、維持管理を持続的に行うためには若い世代の担い手を増やしていくことが解決策の一つとされる。具体的に担い手は、人口が集積する都市地域からの誘致が考えられるが、多くの都市住民は里山地域に対しての認識はあっても行動を実行するまで至らないと考えられる。

そこで本研究では東京農業大学をはじめとして多様な主体で実施されている福島県鮫川村における里山景観保全活動を軸にした。具体的研究対象は、この活動への(1)「参加者(大学生)」、および、参加者の友人でこの(2)「活動に参加したことがない若い世代」とし、参加者(1)、非参加者(2)の両方に同様の内容の意識調査を行った。そこから、活動参加の決定要因や、参加しない要因を解明する事を分析し、里山地域への関心を高めるための、あるいは、活動への参加を促進する方策を考察した。